



THE PHENOMENOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN

THE PHENOMENOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN
SECRETARIAT: Rikkyo University, College of Arts, Department of Education,
3-34-1, Nishi-Ikebukuro, Toshima-ku, 171-8501 JAPAN

日本現象学会事務局

〒171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学文学部教育学科 河野哲也研究室

TEL: 03-3985-3569 FAX: 03-3985-3569

E-mail : paj-office@pa-j.jp 郵便振替 00980-9-109153

事務局便り

2017 年 3 月 25 日

日本現象学会会員各位

拝啓 春寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2015 年 4 月より立教大学が事務局業務を行ってまいりましたが、2017 年 3 月末で 2 年の事務局業務を終えることとなります。現象学会委員の皆様および会員の皆様には、様々な形での事務局運営上のご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

新年度からは大阪大学に事務局が移転いたします。また、新年度の研究大会は、大阪大学・吹田キャンパスにて開催されます。実り豊かな大会になることを祈念しつつ、今後とも皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

敬具

I. 事務局の移転について

2016 年度をもちまして、立教大学における事務局の業務が終了となり、2017 年度からは大阪大学に事務局が移転します。事務局の詳細は以下になります。ご注意ください。

新事務局長：村上靖彦

新事務局員：川崎唯史、井上瞳

新事務局住所：

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘 1 番 2 号

大阪大学人間科学研究科基礎人間科学講座現代思想研究室

Tel. 06-6879-8075

Email : paj-office@pa-j.jp

Ⅱ. 事務局便り、研究大会プログラムの電子化についてのお知らせ

2015 年度研究大会第 37 回委員会議におきまして、事務局からの連絡の電子化が認められております。

事務局便りならびに研究大会プログラムのメール配信を希望されます方は、**タイトルに電子メール配信希望**とつけ、**paj-office@pa-j.jp** まで、お名前、ご所属、配信先メールアドレスを記載の上、メールしていただけますよう、ご協力お願いします。メール配信の場合は、郵送は致しませんのでご了承ください。

Ⅲ. 第 39 回研究大会個人研究発表・ワークショップの募集

第 39 回研究大会は、2017 年 11 月 11 日（土）と 12 日（日）に大阪大学・吹田キャンパスにて開催されます。

a. 個人研究発表の募集

個人研究発表を希望される会員は、以下の要領で発表要旨を作成の上、**事務局へ Word ファイルを添付の上、電子メールにて提出してください。**

外国語（英語・ドイツ語・フランス語）での発表が可能です。

個人研究発表要旨応募要領

① 字数制限：

（日本語での発表の場合）A4 版用紙 2 枚（40 字×30 行×2 枚；2400 字）以内

（外国語での発表の場合）A4 版用紙 2 枚（字数 800 語）以内

（参考文献は字数に含みます。また、文字数・原稿用紙両方の規定を厳守のこと

② タイトル・様式など：

冒頭に、**別紙で**、タイトル・氏名・連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）・所属を必ず記載してください（枚数・字数に含まず）。

③ 期限・送付先：

2017 年 5 月 31 日（水）（期限厳守）

事務局（paj-office@pa-j.jp）宛

④ 備考

- ・『年報』第 33 号に論文が掲載される予定の方は、今年度は発表ができません。
- ・発表の可否は、委員による審査の上、7 月下旬頃にご連絡致します。
- ・発表可となった発表要旨は、日本現象学会の HP 上で公開します。
- ・発表要旨のタイトルを研究大会での発表の際に変更することは認められませんのでご注意ください。ただし、副題を添えるなどの変更は認められます。
- ・発表原稿は、当日**一部**ご用意のうえ、事務局にご提出ください。また、同じ原稿を**事務局（paj-office@pa-j.jp）まで電子メールにてお送りください。**
 - ・個人研究発表時間は 30 分です（質疑応答は別に 15 分）。

- ・発表の際、事務局に提出する発表原稿がそのまま査読用の原稿となりますのでご注意ください。
- ・発表原稿の字数制限：(40 字×30 行×10 枚)、外国語（5000words 以内）を厳守してください。（注については、脚注でも構いませんが、電子ファイルで受け取った時に形式がくずれることがございます。文末注を推奨します。また、総字数に入ります。参考文献も総字数に含みます）
- ・発表原稿のうち、委員による審査を通過したものが『年報』34 号（2018 年 11 月刊行予定）に掲載されます。なお、掲載論文については、**欧文レジュメ**も掲載されます。

b. ワークショップの募集

ワークショップ（萌芽的・実験的テーマに関する共同研究）を会員から募集いたします。以下の要領で発表要旨を作成の上、事務局へ **Word ファイル**を添付の上、**電子メール**にて提出してください。

ワークショップ応募要領

①企画案：

題目、オーガナイザ〔幹事〕名（所属）、提題者名（所属）、要旨（各提題者の発表内容を含む）を A4 版用紙 1 枚（字数 1600～2000 字程度）にまとめてください。別途（A4 版 1 枚）表紙に、オーガナイザの方の連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）を記入してください。

②期限・送付先：

2017 年 5 月 31 日（水）（期限厳守）

事務局（paj-office@pa-j.jp）宛

③備考・オーガナイザ（1 名）は日本現象学会会員に限ります。

- ・提題者は非会員でも構いません。提題者の人数に制限はありません。なお、オーガナイザと提題者がすべて同じ所属であることは認められません。
- ・ワークショップの時間は、原則 120 分です。
- ・発表の可否は、委員による審査の上、7 月下旬頃にご連絡いたします。
- ・ワークショップ報告書（10000 字）が、『年報』33 号（2017 年 11 月刊行予定）に掲載されます。

IV. 「研究奨励賞」について

2016 年度の第 5 回受賞者は、小田切建太郎氏（「パイネスタイからエルアイクニスへ——ハイデガーにおける現象の中動 - 再帰的動態を再考する——」）に決定いたしました。

・各年度の受賞に当たって編集委員会で下記の条件のもとに選定の審議が進められます。

- ①受賞審査対象は、大会発表時に提出された投稿論文とする。
- ②受賞者の資格は、40歳以下（当該年4月1日現在）とする。
- ③副賞として、受賞論文が掲載される『年報』を10冊提供する。
- ④「研究奨励賞受賞者」については、本人の希望を確認のうえ、「日本学術振興会育志賞」または「日本学術振興会賞」の候補として推薦する。

V. 学会費納入のお願い

2016年度までの学会費をまだお支払い頂いていない方は、早急に納付頂きたく存じます。封筒に添付された宛名ラベルの右下に記載された数字をご覧ください。これが未納金額を示しています。

ご確認の上、同封いたしました郵便振替用紙にてお振り込み下さい。

（例、3000→要納入金額3,000円。0の方には振り込み用紙を同封しておりません。また、これまでの会費の納入額が規定額より多いなどにより、金額が異なる場合がありますのでご確認ください。疑義のある場合には事務局までお問い合わせください。すでに納入された方には、行き違いをお詫びいたします。

なお、会費未納3年（宛名ラベル9000以上）で『年報』送付の停止、未納5年（宛名ラベル15000）で強制退会（未納分を納入しない限り再入会不可）となりますので、会費を滞納されている方はご注意ください。

VI. 『現象学年報』のバックナンバーの廃棄について

『現象学年報』の電子化（現在手続き中）に伴い、在庫管理が困難となっている『現象学年報』のバックナンバー（刊行後5年以上のもの）については、39回大会（大阪大学）で、無償配布後、残部については廃棄処分といたします。

VII. 転居先不明の会員について

現在、転居先不明等の理由で以下の会員の方々と連絡がとれない状態になっております。現在の連絡先をご存知の方がおられましたら、事務局までお知らせ下さい。

VIII. 会員異動のお知らせ（以下敬称略）

- ① 入会（2016年度新入会者：15名）
- ② 退会（2016年度退会者：8名）
- ③ 逝去退会（2016年度退会者：2名）
- ④ 会費滞納除籍（2016年度：6名）

IX. 委員会議事録要旨

日時：2016 年 11 月 26 日（土）12:30～13:50

27 日（日）12:25～13:45

場所：高千穂大学（1103 室）

議題

①総会議長の選出（開催校教員：染谷）

②各委員会からの報告・提案

a. 企画実行委員会（今年度活動報告ほか）

・字数厳密化⇒A4 の 2 枚（40 字×30 行；2400 字）

・発表のプロポーザルについては、全員で査読する必要はない。ひとり 3-4 名ぐらいで手分け。意見が別れた場合は、全員で行う（採択済み）。

＊査読基準：公助良俗に反していないか、現象学に関係しているか。

・評価基準 A,B,C の評価基準に意味があるか？

→今後は、三段階評価廃止し、問題のある発表要旨のみ報告する（採択済み）。

b. 編集委員会（年報 32 号発行報告、研究奨励賞ほか）

・功労者の立松氏への追悼文を次回年報に載せる。

c. 国際交流委員会（今年度活動報告）

③2015 年度決算報告ならびに監査報告

④2016 年度予算案

⑤入退会審査

⑥役員改選結果報告と推薦役員の選出

⑦2017 年度大会について

開催校：大阪大学・吹田キャンパス 日程：2017 年 11 月 11 日（土）と 12 日（日）
（予定）

⑧男女共同参画・若手研究者支援WGからの提案

⑨事務局提案事項

（承認）

・今後、発表者は投稿論文を事務局にデータで事前ないし事後に送信してもらう。
提出原稿は 1 部のみ。

・J-stage への登録を現事務局で可能な限り進める。

（継続審議）

・現時点では導入は難しいが、Paypal 利用の可能性を今後も検討する。

⑩その他